



## 心のバリアのない 社会をめざして

松田正巳さん

### 紙上公共施設見学会「七光台子ども館」

七光台子ども館は、昭和61（1986）年に市内で5番目の児童館として開館しました。

赤い三角屋根がシンボルの建物は、七光台学童保育所も併設していることから、毎日午後になると、多くの子どもたちでとても賑やかになります。

館内は、図書室と工作室、体育室があり、また屋外には鉄棒や動物の形をした遊具なども備え、天気の良い日には元気に遊ぶ子どもたちの声が響きます。

特に、卓球やバドミントンなどを楽しむことができる体育室は、人気が高く、利用が順番待ちとなることがあります。

「知的障がいのある子どもたちが、地域で安心して生活ができる、心のバリアのない社会を目指して活動しています」と話すのは、昨年12月に設立50周年を迎えた「野田市をつなぐ親の会」の松田正巳会長。親の会は、障がいのある子の親が手をとりあい、働く場としての「ふれあい喫茶つくしんぼ」の運営や、バザー「ぼくたち作れたよ」の開催をはじめ、昨年には「キャラバン隊まめっ娘」を結成し、知的障がいへの理解を深めていただくこと、劇や体験談の公演も始めました。

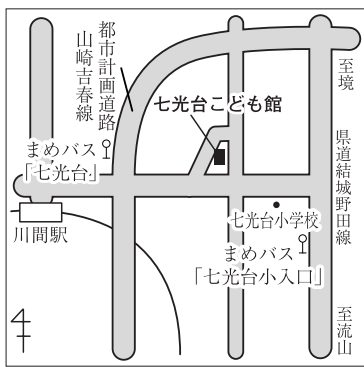


約350人が参加した「わくわくまつり」

午前中は、同じ年代の親子が集まったサークルの活動が中心で、工作をしたり、豆まきや七夕などの季節の行事で、楽しいひと時を過ごしています。

また、同館では、毎月1回、こまや人形などを作る「サタデー工作」や毎月3回、縄跳びやトランプなどで遊ぶ「わくわくたいむ」のほか、毎年10月には、学童保育所と合同で「わ

平成16年1月に、「親じきあとも安心して託すことができる福祉の拠点づくり」の活動をスタートさせ、18年には行政の協力もいただき、通所更生施設「ひばり」を開所し、第一歩を踏み出すことができました。「親の会は、母親と地域のボランティアを中心に活動していますが、50周年を機に、普段仕事で参加できない父親の活動の場も作れば」と今後の意気込みを語ります。 ※「手をつなぐ親の会」では、「障害」を「障がい」と表現しています。 **山崎在住・昭和14年生まれ**



くわくまつり」を開催しています。

昨年は工作やゲーム、バザーなどに加え、市内の手工品の愛好家を招き、ハンカチやロープを使った不思議なショーを見た後、輪ゴムを使った簡単なマジックを教えるもらい、一緒に楽しみました。

子ども館は、毎日9時から17時30分まで無料で利用できます。

## トピックス

### 出初式で新たな誓いを 今年から女性消防団員も

毎年恒例の消防出初式が、1月6日に文化センターで行われ、今年から初参加の女性消防団員13人を含む789人の団員が参加した。



火災予防の広報活動も

行われ、終了後は、野田若とび会による「はしご乗り」や消防団の一斉放水なども披露。女性消防団員は、今後講習や訓練を受け、応急手当の指導や高齢者への防火指導などの任務にあたる。

### 富士のふもとの小学生と みずき小で交流

富士山が小学校から美しく見えることが縁で、「みずき小学校」と富士河口湖町の「大石小学校」はこれまで、絵画交換やメールのやりとり、野田からの林間学校などで交流を深めてきた。



1月11日には、冬休みを使って大石小の5・6年生32人が初めてみずき小を訪れ、合唱や体操などを披露しあった。また、同校の「富士山49景展」を見た大石小児童は「野田からの富士もきれい」と話していた。